

奈良文化高等学校

エコ☆リメイク



高校生ボランティア・アワード2024

「ファッションと環境の現状を知

新しい季節を迎えるたび「あれは去年のこの時期、どんな服着てたかな？」と考え、買い物に行って新しい服を買い、気づけばクローゼットが服でいっぱい…なんてことがありますか？そして着なくなった服は、断捨離しようと思っても処分。

これまでの私がこんな感じてました。しかし、実は、日本の家庭からごみとして出される衣服が年間約45万トン。1日あたり大型トラック約120台にもなる(2022年度ファッションと環境に関する調査より)と知り、これまでの生活を見直しました。

お気に入りの服、思い出のある服はなかなか捨てられずクローゼットの中にずっと眠っていたこともあり、新しく活用する方法を考えました。

2020年7月にレジ袋が有料化し、エコバックが普及し始めてから約4年が経とうとしています。レジ袋を削減しエコバックを使うことはSDGsの17の目標のうち12番と13番、14番にあてはまると言われています。経済産業省や環境省の調査によると、実際にプラスチック製レジ袋の使用量はここ数年間で確実に減っています。しかし、エコバックはまったく二酸化炭素を排出しないのかというと、そういうわけではなく、製造過程においては、1枚のレジ袋を製造するよりも多量の二酸化炭素を排出しているそうです。ポリエステル素材のマイバックは50回以上使えば、毎回新しいレジ袋を使うよりも少ない二酸化炭素排出量での買い物ができそうです。

それならば！新しいエコバックをわざわざ買わなくても、家にある不要になった思い出のあるTシャツで自分だけのオリジナルエコバックを作ってみようと考えました。このエコバックは針も糸も使いません。はさみがあれば15分ほどで作成することができ、小学生からシニア世代まで簡単に作ることができます。古着の回収とエコバックを作成し、少しでも多くの方と一緒に取り組んでいければと考え、この活動をスタートしました。



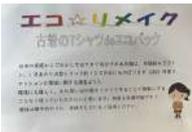
「Tシャツでつくるエコバック 思い出のあるTシャツが簡単変身！」

活動を始めようとエコバックを作っていたとき、偶然メナードフェイシャルサロン道明寺店の店長さんにお会いしました。サロンを新規開店し案内のビラ配りをしておられました。そこで、私も新しい活動を始めようとしていること、折角だから何か一緒にできないかとお話ししたところ、作成したエコバックを置いていただけることになりました。また、お客様の不要になったTシャツを回収することもご協力いただけることになりました。

エステを受けに来るお客様は普段の生活との隔離を求めているのではないかと不安になりましたが、「高校生が社会貢献に取り組むのだから、私も何かお手伝いしたい。お客様も高校生の取り組みにきっと共感してくださるはず。新しいことを始める同士、一緒にやろう！」と応援していただくことができ、トントン拍子に活動の舞台が出来るようになりました。

お客様の声

- 「とてもかわいい！コンビニサイズにちょうどいい」
 - 「テレビを見ながらなど、ながら作業できそうなのがいい」
 - 「子どものお使い用に使います！」
 - 「町会の講座でやってほしい」
 - 「大人用は、伸びすぎてちよっと使いづらいかも…」
- など、たくさんのご意見をいただきました。



12 つくる責任
つかう責任

13 気候変動に
具体的な対策を

14 海の豊かさを
守ろう

「今私たちにできること」 何気なく着ている服も環境につながっていることを知ってください

長く着る

- ・今持っている服を長く着る。
1年長く着ることで、日本全体として4万トン以上の廃棄量削減につながります。

シェアする

- ・家族や友人、またお下がりとしてみんなで着回し

流通させる

- ・バザーやフリーマーケットで市場に再流通
現在再流通している衣服の量は全体の2割程度といわれています。

本当に必要？

- ・衝動的に買わない。本当に必要か見極めて購入

資源として
再活用

- ・古着回収をしている店舗に持ち込む
服1着が回収によりごみとして廃棄・焼却されなければ約0.5kgのCO2が削減されます。

ファストファッションは、気軽に衣類などを購入できることから若い世代を中心に人気を集めています。しかし、ファストファッションは環境汚染や人権問題など、多くの問題を抱えています。大量生産と低価格が特徴で、多くの衣類が大量に生産され、短期間で廃棄されています。また、低価格を実現するために労働環境問題を引き起こしています。

環境問題を少しでも解決するためには、企業だけでなく私たち消費者一人一人のアクションも重要です。



「知る・広める・つながる」 仲間を増やし、次のアクションに！

知る

- ・ファッション業界の現状を知る。
- ・自分たちにできることを考える。

広める

- ・Tシャツのリメイクしてエコバックにする体験会を実施。
- ・「切って、結ぶ」の簡単工程のためシニア世代にも人気。

つながる

- ・古着回収や体験会を通して多くの方と出会う。
- ・タンスに眠る着物を次はリメイク？!

ほんの少しのスキマ時間を活用してエコバックを作成することができます。作っているところを見ておられたシニア世代の方から「私もやらせて」と一緒に作成しました。「これ、認知症予防にいいわ。簡単だけど手指も使うし頭も使うし、今度おばあちゃんたちに作り方教室やってよ」とお声がけいただきました。また「この歳になるとTシャツよりタンスに長いことしまっている着物何とかできない？」と相談いただきました。こうして広がるご縁を大切にしながら、また次のアクションにつなげていきたいと考えています。

『手ぬぐい』のエコバッグ ～災害時にも便利な手ぬぐい～

手ぬぐいは、日本で古くから使われてきた木綿でできた布です。身に付けたり、体を拭いたりなど、生活の様々な場面で使われてきました。

手ぬぐいが災害の備えとしておすすめな理由

- ① 薄いためぬれてもすぐに乾く
- ② 汚れてもすぐに洗える
- ③ 物を包める大きさ
- ④ 手で裂ける
- ⑤ 保管時にかさばらない



これらの理由から、手ぬぐいエコバッグにも挑戦しました。ももとの大きさがフェイスタオルより一回りくらい大きいくらいなので、エコバッグにすると少し小さめのものになります。しかし、コンビニなど少量の買い物には使えそうです。

今後多くの方からご意見をいただきながら、さらに進化していけるようがんばります！